

彫刻・絵画の調査

美術工芸研究室

仏像納入文書の調査研究 昨年度に継続して収集資料の整理解説にあたり、資料集成の原稿作成をおこなった。特に大報恩寺十大弟子像および唐招提寺礼堂釈迦如来像の納入品については納入事情及び結縁者の検討をおこなった。

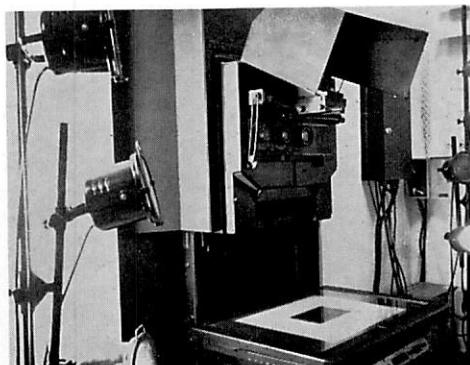
南都造像史の研究 西大寺に於ける彫刻作例を検討し、四王堂銅造四天王立像、木造十一面觀音立像、文殊菩薩騎獅像について再調査し、四天王像では当初の広目天像の残欠を確認した。また文殊菩薩像の獅子像像内の1293年(永仁元)の結縁僧願文・交名を確認した。

写真測量による仏像実測調査 平城宮跡発掘調査部計測修景室との協同で実施している写真測量による実測調査は、上代の丈六像作例として、法隆寺金堂釈迦三尊像、藥師寺金堂日光・月光菩薩像、同寺講堂藥師如来像、蟹満寺釈迦如来像について実施した。また、従来の成果を応用して飛鳥寺本尊および旧山田寺仏頭について推定復原図を作成した(2頁参照)。

「仏像修理記録」に関する調査研究 本研究所所蔵になる旧日本美術院第2部のいわゆる「仏像修理記録」の編集刊行にともなう調査研究で、唐招提寺金堂本尊および千手觀音像の調査成果をもとに、修理記録の図録の作成、ほかに奈良県下分の修理記録・図版資料の整備などをおこなった。

仏像における光背・台座の基礎的調査研究 仏像の莊嚴具である光背・台座の基礎資料の収集とその形式変遷を実証的かつ復原的におこなうもので、本年度は昨年度につづき文献上の用語例の収集と検討をおこなったが、仏画にみる台座・光背を検討の資料として加え、主に如来像についてその資料を集めた。

無収差撮影装置による文化財基礎資料の作成 (科研 一般研究A 研究代表者 長谷川 誠) 損耗のおそれのある古代の絵画や書跡・出土木簡などの文化財と、利用度の高い建築・彫刻・出土遺構・遺物の実測図とを無収差撮影装置を用いて高度に精密な原寸写真に撮影し、文化財の完全な記録的保全と複製化を試みるものである。既成のものに本機関で改良を加え開発した無収差撮影装置を平城宮跡発掘調査部写真室に設置し、絵画(薬師寺吉祥天像・西大寺十二天画像など)、書跡(東大所蔵古伽藍図)、出土木簡(平城宮出土)、建築図面(平城宮朱雀門復原図など)、彫刻図面(仏像の写真測量図)、遺構図面(平城宮第2次~72次)、土器実測図(平城・飛鳥・藤原宮出土)の撮影をおこなった。



第1図 無収差撮影装置